

学校だより

大津市立葛川小中学校

平成28年3月号

インフルエンザBに撃沈



着任して2度目の冬を迎えたわけですが、今年の冬は何やら様子が違いました。地域のどなたに聞いても、「こんなに雪の降らない年は、経験したことがない。おかげで、雪かきしなくてよく、楽だった。」と決まった答えが返っ

てきます。学校のグラウンドも、土が見えている日の方が多かったことは確かです。つまり、暖冬で過ごしやすかったわけです。そのため、児童生徒の風邪による欠席も、ほぼ心配することなく2月まで来ました。ところが、3月に入り突然、インフルエンザの脅威にさらされることになりました。特に小学校では、7人があっという間にインフルエンザBにかかり、3/8から3/10まで、3日間の学校閉鎖の処置を取りました。ちなみに、私も含め2名の教員も仲間入りしてしまいました。なぜか、私だけがインフルエンザAだったのが不思議でもあります。

卒業式を直前に控えて、準備や練習に支障が生じないように残された時間を効率よく使って、式当日に備えたいと思います。

お楽しみの卒業生を送る会



小学校では、『6年生を送る会』でお祝いの出し物をしました。1～3年は、6年生のお気に入りの本の中から、クイズを作り楽しませてくれました。4、

5年は今流行のお笑いを披露し、みんなで爆笑でした。校内かくれんぼ、ダブルドッジなども楽しみました。最後に6年生から「学級クイズ」の出し物がありました。見慣れたはずの校内ですが、「こんな物があるんだ。」と再認識させられました。短い時間ではありましたが、6年生との思い出深い時間となりました。中学校では、「3年生を送る会」で、ユニホッケーの



ゲームをして楽しみました。それぞれ、チームのかけ声(雄叫び)をかけ、白熱したゲーム展開となりました。壁に激突する人もいるくらいでした。盛り上がった後は、在校生が卒業生に

対して、心のこもったお礼のメッセージを述べました。最後は、サプライズでお世話になった先生方からのビデオレターが映し出され、驚きと歓声が止みませんでした。

『みえないキャッチボール』

中学校に月1回程度来ていただいているSC(スクールカウンセラー)の鎌田先生から、表題のようなグループワークを実施していただきました。小中学生が全員、体育館に集合し4、5人ずつのグループに分かれ、ボールを使わずに、キャッチボールをします。投げた人の投げ方でボールの大きさや重さ想像し、顔の表情や手足の動きで相手の気持ちを読み取り、キャッチしなければなりません。一瞬にして観察する力がものを言います。そして、どんな球投げ返すかというリアクションが要求されます。途中から、「嬉しい」「悲しい」「怒っている」「好き」と書かれた4種類のカードが配られ、その気持ちを込めて投げ、相手はそれに反応して、返球しなければなりません。子どもたちは、このゲームを通して、感情を表現したり、読み取ったりすることの難しさを知ると共に、相手や自分の感情を理解していくことの大切さも学んだように思いました。



いよいよ巣立つとき

卒業おめでとう



いよいよ卒業式の日が近づいてきました。(中学校15日、小学校18日)。卒業式は学校の最も大切な行事の一つです。卒業生の晴れの門出を多くの人で

心から祝福していただきますようお願いいたします。特に中学生は「15の春」で、人生の大きな岐路に立ちます。親元を離れて高校生活を送る生徒もいます。また、小さい集団から大きな集団への適応も必要になります。「おめでとう」と同時に「頑張れよ」と力強い言葉で送り出してあげたいと思います。

最後になりましたが、巣立ち行く子どもたちを手塩にかけてお育ていただいた保護者の皆様はもちろんのこと、子どもたちを温かく見守っていただき、また、ご指導いただきました葛川・久多の地域の皆様に心より感謝申し上げます。